

宇部市厚南中学校の生徒参加による自転車通学路点検とマップづくりワークショップ

◆活動概要

- 1) 目的：自転車通学路の危険個所と交通ルールの基本を知り、厚南中学生が安心・安全に通学することができるようにする。取組により自転車利用環境の改善を、地域住民や行政、警察に要請していく。
 - 2) 場所：宇部市立厚南中学校は厚南平野に立地し、西宇部小学校・厚南小学校の校区を含む。JR 宇部駅や商業施設など利便性が高く交通量の多い地域が校区となり、交通量の割りに狭い街路が通学路になっている。生徒数 402 名のうち、部活での利用を含め 255 人が通学などで自転車を使っている。自転車の通学路の危険個所と交通ルールの意義を、生徒と共に考えるワークショップは重要である。
- ・実施日：第 1 回ワークショップ：2024 年 7 月 26 日（金） 8：10～11：00
第 2 回ワークショップ：2024 年 8 月 2 日（金） 8：50～12：00
 - ・参加人数：生徒 1 年有志 11 名、教諭 4 名、うべこまちスタッフ 5 名、宇部市道路整備課 3 名、山口県警 1 名、宇部警察署 1 名
- 3) 第 1 回 WS：学校に集合、座学で WS の目的、自転車通行の基本、通学路で注意観察すべき場所について説明。自転車レーンと交差点の道路模型を使って生徒が具体的に理解できるよう工夫。3 班に分かれ自転車で野外調査。特徴的な通学路 3 ルートを生徒ほかグループで自転車走行、押し歩き。自転車通行方法、危険個所、注意点など話し合い、写真を撮影。
- ・A ルート：山の手町（三浦）、生徒 4 名、警察官、大石教諭（事前に用意したルートマップと生徒の通学路は大きすぎていて、交通量が少なく道のりが短い経路を走行。住宅街、JR の狭いアンダーパス、JR 山陽本線跨線橋
 - ・B ルート：西宇部ふれあいセンター（小林・道路整備課伊藤）、生徒 3 名、本城教諭
 - ・C ルート：沖ノ巨・上開作（村上寛史、兼久）、生徒 4 名、山本教諭
 - ・道路整備課 2 名：調査状況を広報取材
- 4) 第 2 回 WS：会議室で各班が地図を広げ、調査ルートに沿って現地調査で気づいた危険個所をマークし、（写真があれば貼り）、自転車通学路危険マップを作成。宇部警察署から自転車事故防止の啓発講話、宇部市道路整備課から自転車政策の具体的な取り組みについて説明を受け、生徒の自転車利用を守る地域、行政の取り組みを知る機会となった。
- ・参加生徒は、WS の成果を活かし、自転車ハザードマップを仕上げ、11 月 8 日の全校生徒集会で成果発表、掲示した。WS 活動内容、自転車ルールと自転車運転方法を啓発、危険個所を説明。
 - ・WS 調査ルート、注意箇所等を Google マイマップに集約、写真を掲載して教員、生徒が共有できるよう工夫（山口大学工学部・榊原研究室 4 年の赤木さん担当）

◆実施に伴う効果

- ・野外調査に出かける前に、会議室で座学説明した。道路模型を使うことで、自転車の左側通行の重要性、出会い頭の事故危険、車がどこを見ているかなど、生徒に分かり易かった。
- ・野外調査で気づいた、日頃から感じている危険個所（カーブミラーが劣化して見づらい）などを道路整備課係に伝え、迅速に対応いただいたことで、WS の効果が実感できた。
- ・参加生徒は、今回の自転車通学路点検ワークショップの成果を活かし、自転車ハザードマップを仕上げ、11 月に中学校の全校生徒集会で成果を発表、掲示した。
- ・普段、マイカー通勤が多く、自転車利用の機会が少ない教員（生徒指導や 1 年担任）が自転車に乗って各班に参加、生徒の通学路・道路環境を具体的に知り、交通安全への理解を深める機会となった。
- ・山口県警察本部から交通企画課の警察官と宇部警察署の警察官が通学路点検とマップづくりのワークショップに参加し、生徒にとってよい学びの機会になった。
- ・社会福祉協議会のボランティア行事用保険に加入（傷害保険と賠償責任保険がカバーされる）。中学校では参加生徒の保護者に、事前に活動内容を通知し、了解文書にサインを求めた。

◆苦勞した点

校区は広く、地形、道路交通環境も変化に富んでいるため、自転車通学ルートの調査路線を事前に動画で撮影するなど、自転車走行空間の整備や事故原因に知識がない、生徒や先生方に分かり易い動画や写真の準備に工夫が必要だった。

自転車通学路危険マップをデジタル活用して作成には、生徒との作業時間確保が難しく、うべこまち側で、Googleマイマップにより調査ルート、注意箇所、写真などを掲載試行し、意見を聞いている。

◆今後の課題・発展の方向性

宇部市の自転車活用推進計画に掲載の自転車ネットワーク計画は市の中心市街地と藤山中・宇部高・山大工学部など文教地区に留まっているが、郊外部の学校でも自転車通学は多い。JR 宇部線や山陽本線の駅も立地する、宇部市西部の厚南地域の学校と協議して、自転車ワークショップを発展、定着していきたい。そのことにより、自転車レーンや車道混在の自転車ナビマークの整備を助け、人と環境にやさしい、自転車が安全に利用しやすい道路交通環境に寄与していきたい。

団体のメンバーが固定化しているので、自転車利用の魅力、地域活動の楽しさを SNS などで情報発信し、多世代で関心ある仲間を募り、他の団体とも連携・交流していきたい。

◆宇部日報 7月27日

通学路に潜む危険を確認

厚南中1年生 自転車で校区内点検

うべこまちが協力

厚南中（藤本秀則校長）の1年生有志11人は26日、うべ交通まちづくり市民会議（通称うべこまち、村上ひとみ会長）と協力して、自転車通学路の点検を行った。3コースに分かれ、実際に自



住宅街の交差点で見通しを確認する生徒（厚南北十目で）

転車を運転しながら調査を行い、危険な場所を確認した。
同校の校区内は、住宅街の狭い路地が入り組

み、車の交通量が多い。全生徒数402人のうち、部活での利用を含め

2015人が通学などで自転車を使っている。今回の点検で危険箇所を把握し、結果を文化祭などで全校生徒に公表することで、自転車の安全運転意識の向上に役立てる。
生徒たちは、あらかじめ設定したルートの他、頻繁に使う道の危険箇所について実地で情報収集。調査後は学校に戻って、交差点などでの見通し、カーブミラーの有無などからどのような危険が潜んでいるかを考えた。
うべこまちのメンバーからは「校区内は走りやすい道が多い。だからこそ、他のことに気を取られて危険な場面に遭遇することもあり得る」などと指摘があり、生徒たちは安全運転の大切さについて改めて認識していた。
（久保）

◆写真



第1回 WS: 出発前の集合写真



第1回 WS: 左側縦列走行



第1回 WS: 自転車通学路点検、止まれサイン確認



第2回 WS: 自転車ハザードマップ作製



第2回 WS: 班ごとの発表、危険個所の気づきと対策



第2回 WS: 参加生徒、道路整備課、うべこまち

◆点検調査ルートマップ

修正Bルート（西宇部ふれあ...

- 📍 B01_交差点
- 📍 B02_交差点
- 📍 B03_交差点
- 📍 B04_隣保館近くの交差点
- 📍 B05_フジ西宇部店裏の道路
- 📍 Bルート
- 📍 B06_里の尾地下道前の三叉路

修正Aルート（山の手方面）

- 📍 A01_アンダーパス北側付近
- 📍 A02_住宅街
- 📍 A03_橋
- 📍 A04_JA厚南前交差点付近
- 📍 A05_宇部進付近
- 📍 A06_コスモス西側の信号交...
- 📍 A07_歩道



B06_里の尾地下道前の三叉路



右からの車が見えにくい
L字に曲がる市道の交通量多く、横断しにくい

Cルート実走（上開作・沖の...

- 📍 C01_交差点
- 📍 C02_沖ノ巨橋付近
- 📍 C03_宇部西病院前道路
- 📍 C04_住宅街
- 📍 C05_踏切
- 📍 C06_住宅街
- 📍 C07_交差点

- 厚南中学校：自転車通学路点検ワークショップ・調査ルート（A、B、C）
- Google マイマップにて作成、マークの箇所に写真をリンクしている

◆厚南中学校で作成したハザードマップ

全校集会で自転車WS 発表、2024年11月

